

電気工作部職工は監獄橋附近に召集されたし

と以上の如く貼紙を爲し又職工通路の要所々々に立札を作りて同様の掲示を爲したれば職工等は別に騒ぐ模様もなく平靜に本社前を退散し、夫々の集合所へ赴きたり。

斯くして大倉山には造機部職工五千名、湊川遊園地には造船の一部及び組合職工二千名、會下山へは造船職工八千名、菊水橋附近廣場へは電気部の職工千二百名が夫々集合し、策戦方針に關し協議を開始せる時、警察當局は一齊に解散を命令し、示威行列を絶対に禁止し労働歌及びを鳴物も一切嚴禁する旨傳達したれば職工等は手にせる小旗を捲き悄然として退散せり。兵庫工場職工も示威行列禁止の嚴命に遭ひて全部解散するの余儀なきに至れり。

尙表面要求未提出の爲め休業の埒外に置かれたる葺合分工場は是亦朝來動力を止め全然休業状態にありて職工等は場内に於て喇叭等鳴らし居たるが警戒警官の制止を受け労働歌も唱へず鳴りを鎮めて寄々協議を凝らし定刻隱かに退場したるが、職工側は本工場と其の行動を同じうすべく委員若林氏等は爭議本部に至り本工場側と連絡協議する處ありたり。

右の會社側の休業發表に關し水留、山本の兩重役は夫々左の如く言明する處ありたり。

永留重役談「工場内の秩序維持のため十日間の休業を發表しました。其間家族が氣の毒ですから日給の半額は支拂ふ筈で、工場管理が如何に危険のないものでも重役の命なくして工場を管理することなどは今の日本では爲し得べきことではありません」云々。

山本重役談「工場の秩序を保つ爲に休業しました。十日後も形勢が分らなかつたら更に亦休業日數を延期します。今朝以來の警察當局の處置には非常に感激して居ます。然し本社の職工は非常に訓練があり、節制があると見えて案外靜肅に引取つて呉れました。」云々

#### 四、聯合要求の運命

十四日午後二時、川崎造船所電気、造船、造機、製罐各工場及び兵庫、葺合分工場職工一同の聯合要求は豫定の如く會社側重役と會見の上提出せられたり。當日の會社側の代表者は永留、山本の兩取締役の外に、小川、藤井、目良の三重役を加へ、職工側又書記を加へて十九名の多きに及べる爲め、會見場は會議室の廣間に變更せられ頗る緊張味を加へたり。職工側代表者氏名左の如し。

▼造舵工作部 近藤民治、高橋八三郎、三木信太郎、和田勇治、角田芳太郎、書記寺岡武

▼造機工作部 桑田喜三郎、重富直太郎、

▼製罐工場 行天甚四郎、森信一

▼電気工作部 濱崎鐵太郎、丹崎永一、書記石原茂

▼兵庫分工場 池田武夫、井上清吉、井原茂、町田潤太郎、書記川島民